



『QCサークル』誌 2026年7月号 見どころ、読みどころ

★トップからのメッセージ

表2～

ダイハツインフィニアース㈱ 代表取締役副社長 森本 国浩さん

品質保証を原点に多様な部門を経験してきた森本さんは、QCサークル活動を人材育成にとどまらず、挑戦する企業風土を築く基盤と位置づけています。活動再開から4年、リーダー層の若返りや社外発表への挑戦など、活性化に向けた取組みも紹介。「進む、をつくる。」を掲げる同社が、QCサークル活動を通じて主体性と挑戦心あふれる組織づくりを進める姿に迫ります。

★ザ・ショット 写真で綴る QC サークル紀行

p.3～

パナソニック㈱ 冷蔵庫 草津工場

日本の冷蔵庫生産を支えるパナソニック草津工場を訪ね、長年にわたり継続されてきたQCサークル活動の現場取材しました。工場ではコロナ禍においても活動を途切れさせることなく、人材育成と品質向上を推進。なかでも「ストロング・トゥ・チェンジサークル」は、慢性不良の修正作業を根本から見直し、徹底した現状分析とチームワークで大きな成果を生み出しました。高い目標に挑戦し続ける姿勢や、活動を支える職場風土、QCサークル活動の継続と進化の秘訣について伺いました。

★特集：改善効果、せつかくだからわかりやすく伝えたい

p.9～

改善活動で大きな成果を上げても、その内容が相手に正しく伝わらなければ十分な評価や共感はありません。本特集では、QCサークル活動の成果を上司や経営層、さらには社外の人にもわかりやすく伝えるための報告書作成のポイントを解説します。ヒストグラム、パレート図、グラフ、レーダーチャートなどQC手法を活用した効果的な表現方法に加え、波及効果の伝え方も紹介。改善のプロセスや成果をより正確に、説得力をもって伝えるための実践的なヒントが満載です。

★活動支援のページ：リーダー・サークルに寄り添う支援の工夫 ～QCサークル活動をより楽しく進めるために～

p.23～

第7回 テーマ選定の理由や背景を明確にすることでメンバーの意思統一をはかろう！

2026年下期の「活動支援のページ」では、仮想サークルの成長物語を通じて「課題達成型 QC ストーリー」の進め方をわかりやすく解説します。テーマ選定から現状把握、方策立案、実行計画の作成、効果確認まで、各ステップで押さえるべきポイントや推進者による支援の工夫を紹介。改善活動に取り組むメンバーの悩みや気づきを描きながら、実践的な進め方を学べる内容となっています。これから課題達成型 QC ストーリーを学ぶサークルや、活動をより充実させたい推進者のみなさん、ぜひ参考になさってください。

★体験事例&ワンポイント事例

今月は、体験事例2件、ワンポイント1件を紹介します。

体験事例：p.30～

1. ㈱岩手村田製作所 久慈工場「トクセンジャーサークル」
「CAP 有無選別機の製品落下削減～全員主役、職場のヒーローを目指して！～」
2. ㈱デンソー 西尾製作所「H2サークル」
「やってよかった」から「次もやりたい」へ『磨き不良ゼロ』への挑戦

ワンポイント：p.38～

1. 日本板硝子㈱ 相模原事業所「ひらめきサークル」
「SLA 検査機の立上げ時間短縮～新人の苦悩と試行錯誤が手繰り寄せたカイゼン～」

★サークル Q&A ただいま出動 QC サークル 119 番～あなたの困りごとに寄り添います～

P.44～

カルテ 201 改善したことがなかなか定着せずいつの間にか戻ってしまう

改善したことがなかなか定着せず、いつの間にか元のやり方に戻ってしまうというお悩みについて、編集委員がアドバイスします。

★私たちの活動を紹介します！—海外企業の取組み—

P.46～

TMJP BPO Service

フィリピンでBPOサービスを展開するTMJP BPO ServiceのQCサークル活動を紹介します。同社は日本で培われた品質管理の考え方を基盤に独自の改善教育プログラムを構築し、継続的な改善文化を醸成してきました。「SAIKURUサークル」は、業務効率化を目指して独自のタスク管理ツールを開発。工数の自動計測や進捗の可視化を実現し、業務品質向上とチーム連携強化に大きく貢献しました。日本品質を海外で実践する取組みと、その成果を支えるQCサークル活動を紹介します。

★『QCサークル』誌 活用・普及貢献受賞組織の『QCサークル』誌活用法

P.48～

トヨタ自動車東日本㈱

2025年度『QCサークル』誌活用・普及貢献受賞組織のトヨタ自動車東日本㈱に、本誌の活用法をうかがいます。ぜひみなさんご参考になさってください。

★ルポ1

P.50～

東京都立病院機構&東京都福祉局による「テーマ別改善運動発表会」を見てきました

東京都立病院機構と東京都福祉局が主催する「テーマ別改善運動発表会」を取材しました。36年にわたり続くこの活動には、看護、薬剤、検査、栄養など多様な職種が参加し、医療の質向上や業務改善に取り組んでいます。本ルポでは、大規模災害時の食事提供体制の強化に挑んだ豊島病院の事例や、医薬品申請業務のDX化で年間約1,200時間の業務削減を実現し最優秀賞に輝いた墨東病院の取組みを紹介。医療現場ならではの創意工夫と、楽しみながら改善に挑戦する組織風土を紹介します。

★ルポ2

P.54～

24年の時を経て QCサークル山陰地区復活～中国・四国支部との絆が紡ぐ新たな一歩～

2002年から休眠状態にあったQCサークル山陰地区が、24年の時を経て2026年度に復活しました。本ルポでは、復活にいたった経緯や、地域活性化への思いを語る地区メンバーの声を紹介。さらに、中国・四国支部や岡山地区による伴走型支援の内容や、地区運営ノウハウの継承、人材育成に向けた取組みにも迫ります。2026年11月の発表大会開催を皮切りに、新たな学びと交流の場づくりに挑戦する山陰地区。地域企業がつながり、ともに成長していく新たな一歩をレポートします。

★QC検定道場

P.56～

第7回 品質経営の要素：方針管理、新QC七つ道具（1）

「QC検定道場」では、品質管理検定（QC検定）3級の合格をめざし、レベル表にしたがって過去問題と解答、解説を紹介します。今月は、QC検定3級の過去問題から、品質経営の要素として、「方針管理」および「新QC七つ道具」に関する32つの重要な問題を詳しく解説します。

★連載講座：職場で使える心理学～QCサークル活動を、考え・工夫し・成長する活動とするために～

p.60～

第1回 QCサークル活動に必要な心理的安全性

2026年下期の連載講座では、「職場で使える心理学」をテーマに、QCサークル活動をより活性化するためのヒントを紹介します。心理的安全性やモチベーション、コミュニケーション、信頼構築など、人の意欲や行動を支える心理学の知見をわかりやすく解説。産業組織心理学の視点をもとに、メンバー一人ひとりの力を引き出し、チームとして成果を生み出すための考え方や実践方法を学びます。QCサークル活動を「改善の場」から「学びと成長の創造の場」へ進化させるための連載です。

★歴史上の偉人から学ぶ“TQMの実践”

p.70～

つねに読者を意識：自分が描きたい作品をつくるプロセスが“楽しい”、“面白い”からやる

QCサークル活動やTQMの実践に通じる視点を、漫画・アニメ界の巨人である手塚治虫から学びます。「インプットなくしてアウトプットなし」の信念のもと、映画や音楽、演劇、読書、昆虫採集など幅広い体験を創作の源泉としてきました。本記事では、手塚治虫の創作哲学や行動力をひも解きながら、事実に基づく判断、プロセス重視、顧客志向など、QCサークル活動に活かせる学びを紹介します。

☆『QCサークル』誌に貴社の広告を掲載しませんか？

会社や自社製品のPRの場として、ぜひご検討ください！

詳細はホームページをご覧ください。

++++ 本件に関するお問合せ ++++++

一般財団法人 日本科学技術連盟 『QCサークル』誌編集

TEL：03-5378-9817 E-mail： editotqm@juse.or.jp

